

— 塗装木材に対する手入れ剤の影響 —

花王生活科学研 ○柴田久美子 佐藤孝逸 重弘文子

〔目的〕塗装木材は床・柱・ドア等の建具や家具等に広く用いられており、それらの手入れに関する消費者からの相談は花王にも寄せられている。そこで住宅用洗剤等の手入れ剤が塗装木材にどのような影響を与えるかを、手入れ剤の濃度及び接触時間を変化させ木材や塗装の種類による違いを中心に検討した。

〔方法〕実験はJIS A 1531「家具の常温液体に対する表面抵抗試験」に準じた。各試験手入れ剤液を含浸させた直径3 cmのろ紙（No 2）を、木材塗装面に均一に一定時間接触させた後、ガーゼで拭き取り室内で放置乾燥させ、影響の程度を観察した。処理は5回繰り返した。

木材はカエデとケヤキの2種類を用いた。塗料の種類は、木材塗装として一般に用いられているアミノアルキド、ウレタン、ラッカー及びポリエステルである。用いた塗装木材試料は、専門業者に塗装を依頼した。

手入れ剤としては市販の一般住宅用洗剤、住宅用強力洗剤、ガラス用洗剤、家庭用汎用ワックス、台所用洗剤、漂白剤及びアルコール系クリーナーを用いた。

〔結果〕①塗装していない白木は手入れ剤による変色の影響を受け易い。②塗装木材は種類により手入れ剤の影響を受けるものがあり、洗剤の成分との関係がみられた。③アミノアルキド、ウレタンは手入れ剤に影響されにくかった。④ラッカーは洗剤中の有機溶剤の影響を受け易く、ポリエステルは洗剤中のアルカリ成分の影響を受け易い。